

2004-12-15

混沌とした中から

第10号

発行責任者 稲崎義明

混沌とした世界にどっぷり浸かって（5）

実は、時期が前後するのですが、出向に行く前の年に結婚したのですが、そのけつこんのどさくさにまぎれてパソコンを購入していたのです。お金もなく新婚旅行も近間で済ましたというのにいろいろあったのですが、このときとばかり購入したものです。で、そのとき購入したのは富士通初めてのパソコン「FM-8」です。そのときすでに2台目のコンピュータとなるわけですが、PC8001も発売となっていたのですが、H68-TRがCPU6800であったことから同じ系列の6809のCPUであること、2CPU（1つはメインでもう1つがグラフィック対応、ということはこの頃のパソコンはグラフィックもメインCPUが処理していた 実はキーボードにワンチップが入っていて3CPUともいわれていた）であること、メモリが64kB (PC8001は16kBから増設)実装済みであり、漢字は表示するし、画面はカラーだしといったことから選択したのだったと思います。それまでのH68などがアセンブラー中心であったのに対して、パソコンになってからBASIC中心になっていました。外部記憶はもちろんカセットテープです。そこでカセットテープによるデータ保管の話です。

最初のワンボードマイコンの頃中心だったのがカセットですが、それにも標準がありました。それが「カンサスシティスタンダード」です。カンサスシティスタンダードはその名のとおりアメリカのカンサスシティでの会合で規格化された周波数偏調方式でデータを音声に変換して録音するもので、速度は300ボート(600bps)を中心でした。しかし、正直なかなかうまく読み込みができなかつたことと、ファイルに名前を付けることができなかつたので、カセットテープをまず巻き戻しして、カセットレコーダのカウンタを「0000」にして、このあたりと思うところまで早送りして読み込むということをやっていました。それでも実際に動かしてみないと合っているかどうかわからなかつたので手探り状態でした。それが、FM-8などが出る頃にはサッポロシティスタンダードという方式が出ていて、これが1200ボートで早くて読み取りが割りとうまくできるというのが売りでした。確かちゃんとファイルに名前も付けれたので、ファイル名を指定すれば指定したものだけが読み込めるというので、重宝したものです。しかしそれでもうまく読み取ることができないこともあつたりして、テープレコーダを買ってきましたこともあります(この頃パソコン用にスイッチ切り替えできるものが発売されていました 買ったのは普通のものでしたが)。カセットテープもパソコン用に5分や10分のものがありました(その後同じぐらいの長さのものがカラオケ用となっていますが)。H68の時代からカセットを使っていましたが、結構テープを持っていたようです。

その時代もしばらくするとやはりカセットでは耐え切れなかつたのか、多少お金に余裕が出てきたのかフロッピーディスクドライブを購入しました。それとプリンタも購入してフルセットをそろえました。もちろんプリンタはドットインパクトの白黒のものです。ディスプレイは初め普通のテレビにつないでいたのですが、専用を買ったのではなかつたでしょうか。この頃のフロッピーは5インチです。1枚で640kB(2DD)の容量がありました。もちろん純正ではなくサードパーティのものでしたが、フルセットで40万ぐらいにはなるのではないかでしょうか。この頃のフロッピーは5(5.25)インチのもので、8インチのものも使われていました。三菱のMulti16や沖のif-stationの外部記憶装置として純正として8インチのものがありましたが、この頃パソコン用として5インチが出てきた頃です。

(次回へ続く)

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 12月6日号

特集 2005年モバイルの旅

→モバイルパソコンが本当にやってくるのか。ビジネスマンがこれから
いっそうパソコンを持ち運ぶことが増えてくるのか。普及が進まない理
由は、日本の仕事のスタイル（他の人が見ている社内で働いているとこ
ろを見せたほうが仕事をしていると思われる、アピールができるな
ど）、会社のPCに比べ遅い、1kgでもまだ重いなど3つのわけがあ
る。しかし、ネットワークがどこでも使える（PHS、携帯から無線L
AN）状態になり、軽量化、高性能化が進んで、2005年はモバイル
の年になるか。しかし、個人情報の兼ね合いもあり、いたるところで使
うことが果たして大丈夫だろうかという疑問は個人的には残るが。